

編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2A (総務)
TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com
代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部 200円
年間購読料：個人会員 2000円 広報会員 (3部) 5000円
法人会員 1口 (5部) 10000円 賛助会員 (1部) 10000円
振替口座 00940-0-161341
「まねき猫通信」



もくじ

とくしゅう たい おおさかふ こうしょう
特集：8/7 対大阪府オールラウンド交渉 - 2
しゅうろくけいぞく エーがた ひび とどろき ひろし
リレーエッセイ：就労継続A型での日々 - 轟 広志 - 4
めいばく せんそうほうあん あや いしづかなおと
明白になる戦争法案の危うさ - 石塚直人 - 5
かんさい きんきうんゆきよく いけん こうかんかい
アクセス関西 近畿運輸局と意見交換会 - 7

題字：
塩澤 文男
(しおざわ・ふみお)



ねこがくるう！
絵：せいくん

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

戦後という時代が戦前に変わる気配、それが一向に消えない。キナ臭いと言うより、無臭で無機質な手術室に入れられて、これから否応なしに体を切り刻まれて、これからの気分だ◆1994年、朝鮮学校に通う女子生徒の制服(チマ・チヨゴリ)が切られる、また、身体に直接的な暴力が加えられる、といった事件が300件以上も起きた。これを契機に「チマチヨゴリの少女が襲われる…ニッポンで何やねん？」を合い言葉に『セレブレリション・コンサート』(セレ・コン)が、東京・大阪で開催された。セレ・コンは、日本社会の排外主義を乗り越えるために「多様性(Diversity)の未来」を先取りして「祝う(Celebrate)・セレブレリション」という趣旨で命名された。出演したのは、東京ヒビンバ・クラブ、喜納昌吉、紙ふうせん、ガーンネット・レイジ、キム・ジョン、太鼓集団「怒」、木村充揮とブルー・ス・ギャング。そして、デビッド・スズキ、チカカップ美恵子(故人)、金城実、北野誠、鈴木邦男の各ゲストが熱いメッセージを寄せた◆あれから20年、この国は「多様性」どころか「差別を煽りながら戦争を肯定する」方向に、確実に向かっている。安倍首相の「戦後70年談話」だと…？ファシストが反省などするものか！。(パギ)

対大阪府オールラウンド交渉 8/7

現場の声伝え、施策の充実を要求

障害者権利条約を地域で実現するために



▲交渉に臨む古田議長（中央）

8月7日、対大阪府オールラウンド交渉が平野区民ホールで行われ、300人を超える障がい当事者が参加。合理的配慮の提供、地域で生活する権利の実現に向け現場の声を伝えて、施策の充実を訴えました。この日のテーマは、①介護、②入所施設からの地域移行、③グループホーム、④自立支援・日中活動と、多岐にわたりました。大阪府からは、障がい福祉企画課・高鹿課長をはじめ各課長・担当者が出席。事前に提出していた要求書への回答から始まり、大阪府の障がい者施策について実情を伝え、共通認識を作るべく議論が進みました。交渉をリードした古田朋也さん（障大連議長）は、交渉終了後「全体的に回答が後退してい

入所施設から 地域生活へ

障がい者を長期にわたって施設に閉じこめることが、障がい者権利条約に違反する点とは明白です。このため施設

る」との印象を述べています。これまで交渉を通じて積み上げてきた認識や合意事項が忘れ去られて、国の見解を繰り返したり、国や市への要望・要請という回答でお茶を濁したりという場面が、多々あったからです。古田さんは「人事異動で変わった新しい担当者に、経緯や蓄積が引き継がれていない」としたうえで、「府独自の認識や問題意識をもっていないことが後退の根本原因だと思っています」と危機感を募らせました。

今号では、主に①地域移行への取組、②グループホーム問題について交渉内容と確認事項をお知らせします。
(文責・編集部)

から出て、地域生活を始めるための支援とその仕組みを作り出すことが、近年の課題となってきました。大阪府は、自立生活運動の成果もあって

全国で最も地域移行が進んでいます。先進地域であるだけに、障がい者権利条約の実効性を確保し全国への波及を進める意味でも、歩みを止めるわけに

生活づくり支援の 小規模グループホーム

特に重度障がい者の地域移行は重要です。交渉ではパンジー（東大阪市）の担当者が、現場の様子を報告し、地域移行に必要な要素として、①施設側の協力、②地域生活を意識した施設側の支援、③体験入居を



▲現場の実情を訴える当事者

重ねること、④地域生活開始後の支援とバックアップの重要性

はいきません。この日の交渉で古田議長は、①府長期計画に「長期入所は人権侵害」と明記すること、②地域移行を進めていく仕組み作り、③入所者が地域生活に移行できるよう施設に働きかけを強めることを求めました。

地域移行を進める施策のひとつに、ピアサポーター派遣事業があります。何十年にもわたって施設で暮らしている障がい当事者は、お金の使い方や食事の作り方など、基本的な生活能力や社会性を身につける機会を奪われてきました。このため、地域生活をイメージすることが困難で地域移行が進まない現実があります。そこで入所者が地域のGHを見学などを指摘し、これらを進めるうえでも、⑤コーディネーターの存在が重要で、大阪府独自の取組を進めていかなないと地域移行は進まないことを力説しました。

また、「地域移行センター事業」では、施設からの移行に際して受け入れる小規模グループホーム（以下「GH」と略）を増やすために府独自の事業

として予算を組み、地域移行を主体的に進めてきました。体験入居も大阪府独自の施策として始まり、全国に波及した事業のひとつです。大阪府側は、地域移行のあり方について、①地域移行と「暮らす場を移すだけの支援でなく生活づくりの支援であること」を再確認する、②府では10人を超える大規模なも



▲真剣に耳を傾ける大阪府

設置義務化は、地域移行の

とグループホーム

スプリンクラー義務化

のは今後作らない。コロニーの大規模GHも生活状況をチェックしていくことを確認。また、府の地域移行の取り組みとして、①地域移行を進める団体(身体・知的)を集め、登録し府HPに掲載していく、②地域移行を進めるためには施設への積極的働きかけが必要なので、府のピアサポーター派遣(地域移行促進、強化事業)のように施設と地域が相互訪問する事業の実施を検討することなどを回答しました。

重度障がい者を排除するの？

また、消防署からグループホームが入居した建物の貸し主に、(防災上)「重度障がい者を入れないよう」指導が入っている現実も指摘されました。「軽度障がい者のGHであり続ける」ことを約束する念書を書かされるケースも相次ぎました。障がい者のGHで「重度はお断り」というのは、明らかな差別であり、障害法令違反です。この点に関し大阪府は、①府内の状況を調べ、各市消防での「重度障がい者の入居が阻ま



▼避難訓練の実績を報告し、義務化の緩和を訴えた

にかかわらず全てスプリンクラーが義務づけられました。障大連グループホーム担当の砂川さんは、設置義務の緩和措置を大幅に拡大するよう求めるとともに、大阪府独自の補助制度を創設して、早急に対応できるよう求めました。ただし、入居者の安全や命を軽く観ているわけでは決してありません。運営側は、安全な避難方法を考え、訓練も重ねています。南部障害者解放セン

ター(堺市)では、防災の取組に力を入れ避難訓練を重ねています。GH「かおりハウス」に住む前田さんは、介護者が夜間1人でも2階から避難できるような工夫と訓練を重ね、3分以内に避難できるようにしました。改正消防法では、府営住宅やマンションではスプリンクラー設置は難しく、設置免除の要件も、GHの各個室の扉を不燃性の鉄かガラスに変えることや、

内装壁材を難燃素材に変える、など現実離れした規定が書かれています。府営住宅でGHは、570軒、重度GHだけでも150軒以上あります。これら全てにスプリンクラーを設置することは、費用面や大規模な工事になることから不可能です。実際、府下の共同住宅に入居するGH800戸のうち、設置実績は1%という事実が大阪府から報告されました。議論の結果、大阪府からは、

①府営住宅にスプリンクラー設置は困難なので設置しない方が望ましい。②共同住宅のスプリンクラー免除規定で、各居室の戸を不燃(鉄やガラス)にすることは無理なので、国交省・厚労省に問題を訴えていく。③府営住宅での消防対応について所轄市によって見解が異なるのは問題なので、各市消防に均一対応を求めていく(障がい部局)との回答がありました。

グループホームは住まいであり「施設」ではない

スプリンクラー設置義務化は、消防当局が、GHを「施設」と見なして基準を作ったことに、根本的な問題があります。障がい者権利条約は居住権について、障がい者が望むところに住めることだと述べています。障がい者の住まいであ

るGHの安全確保は無論必要ですが、一般住宅とはかけ離れた異なる基準を適用するならば、障がい者は地域で生活することができなくなり、条約違反の疑いが強まります。今回の交渉では、前列に並んだ障がい当事者が交渉をリードし、府の担当者側の制度理解と取組みの必要性を確認していくという場面も多々ありました。大衆的団体交渉でありながら、主張をぶつけるだけでなく、障がい者の現実を共有し、解決策を模索していくという、とても建設的な交渉だと思えました。これは、障大連の活動の積み重ねと周到な準備の成果です。